

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
1-①	3	最優秀賞	大阪府	ショートステイにおけるBPSDに対する取り組みについて	特別養護老人ホーム ベルアルプ	橋本 慎太郎	24時間生活変化シートをうまく活用し、BPSDの発現の変化を分析することによって科学的根拠に基づいた介護の実践を行った素晴らしい取り組みだと思います。介護・家族・医療の連携によりBPSD発現の変化と利用者の生活背景との関係に着目し、薬剤の調整を行い、統一した関わりをもつことによってBPSD発現の減少につながったことがわかりやすく説明されていて、介護・家族・医療の連携の重要性がよくわかる内容でした。24時間生活変化シートの活用など、他の施設の参考になると思います。
1-①	2	奨励賞	三重県	不安な表情の多い高齢者への関わり	特別養護老人ホーム 報徳園	近澤 明莉	利用者の情動の変化と職員の関わりについて丁寧に観察、分析し、対象者の気持ちに寄り添った対応を行うことで、泣くことが減るという結果となったことは素晴らしいと思います。利用者の複雑な情動の変化と職員の関わりを明確に記録し、可視化することによって、取り組みの成果がわかりやすく、参考になる発表でした。
1-①	4	奨励賞	香川県	外出支援への取り組み ～外出することによる効果～	特別養護老人ホーム とよなか荘	五味 芳廉	介護度の重い方を対象に外出困難な環境の中で外出支援に挑戦し、利用者のQOLの向上や家族の満足に繋がったことがわかりやすくまとめられていました。利用者の表情や動きなどを丁寧に観察し記録したことによって、言葉だけでなく表情から利用者の感情や意思を汲み取ることに繋がったことは今後のケアにも活かされると思います。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
1-②	2	最優秀賞	東京都	眠れる森のvision ~IOTを活用した新たなケアのあり方~	特別養護老人ホーム 目黒中央の家	藤巻 佳祐	IOTを号乳することで、眠りの質を可視化することができ、これがケアの質向上につながる実践報告となっています。導入の「真の目的」に立ち戻ることで、多職種での取り組みにもつながっています。限られた機器を導入する基準を定め、施設全体でのデータ収集も実現できており、質の異なる事例にも対応できています。職員・利用者、双方のメリットとなる取り組みとしての支店でまとめられている点も評価できます。
1-②	4	奨励賞	富山県	移乗用ロボットを導入して ~当園でのHugL1の効果~	特別養護老人ホーム つまま園	浜出 都	腰痛予防委員会を中心とした取り組みがわかりやすくまとめられています。利用者の状態に応じた福祉機器の使い分けなどの指標が示され「根拠がある介護」を目指す姿勢が評価できます。ご利用者の不安軽減と職員の負担軽減という効果を通して、ご利用者の生きる意欲の向上につながる取り組みといえます。
1-②	8	奨励賞	宮崎県	睡眠の質でQOLが変わる!?~眠りスキャンを活用した伴走型介護を目指して~	特別養護老人ホーム ほほえみの園	大村 美穂	眠りの状態を可視化することで、利用者の生活リズムに合わせた柔軟な支援が、施設全体の取り組みとして実践されています。このIOTを使って得られる「睡眠の質」のデータが利用者の生活の質の向上にどう反映できるのか、今後の実践・研究にも期待できそうです。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
1-③	7	最優秀賞	熊本県	「食の力～食事はケア 食事は人・地域をつなぐ～」	特別養護老人ホーム 桜の丘	川本 里江	食事を楽しんでもらう為に、多職種協働をしっかりと理解されたうえで施設全体で食事、排泄ケアに取り組まれており、加えて地域にで書ける公益的な取組みが素晴らしいと評価しました。今後は多職種連携を活かし、食事、排泄以外のケアへも支店を広げて取り組んでいただきたい。
1-③	2	奨励賞	新潟県	私たちはご利用者の夢を実現します ～夢をとosh てその人らしい生活を目指す～	特別養護老人ホーム みしま園	齋藤 京子	ご利用者の本当に望む生活を把握し、生きがいにつなげるために「ソノヒト・ラ・シート」「カナイ・マ・シート」というオリジナリティあふれるシートを活用されている点を評価しました。日常生活を支えるケアの中身がもっと具体的に見えるのと更に良かったと思います。
1-③	1	奨励賞	北海道	「HAPPY GOALS」～生きるを支える12のゴール。そ れが南幌福祉会の自立支援～	特別養護老人ホーム南幌みどり苑	苦米地 拓也	SDG'Sという時流に乗った、オリジナリティに富んだ取り組みをされ、活動の見える化、データ化により目指すゴールが明確になり成果が繋がっていく取り組みが評価されました。活動の中身としてそれぞれのケアが日常にどのように反映されたのかを具体的に示して下さると更に良かったと思います。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
1-④	7	最優秀賞	徳島県	その人らしい最期を支える看取りケア これまでの看取りケアの歩みを振り返る	特別養護老人ホーム コンフォール 貞光	田岡 真利子	「思い込みや先入観でケアしていないか」という問いは、とても重要な視点です。家族アンケートを元にしたカンファレスによるケア展開、グリフケア、エンゼルケアなど、とても参考になります。本人の意思を中心とするためにACPIに取り組むという姿勢もよく、それは一度で終わりではないことも示しています。病気の進行と組み合わせたACPが本人を動揺させてしまうようなら、「必ず誰にもいずれば来る最期として、どこでどのように過ごしたいか」と質問するとよいと思います。グラフの用い方等、発表映像も見やすかったですが、内容が盛りだくさんでもう少し絞ってもよく、また経時的な取り組みの変化、定着や議論にどの位の時間をかけたのかが分るとより良いと感じました。
1-④	6	奨励賞	鳥取県	皮膚トラブルへの外的アプローチ ～個々の肌質の把握とスキンケア～	特別養護老人ホーム 若葉台	森崎 喬 中尾崇俊	機器(スキンチェッカー)を使って皮膚状態を把握し、その人に合った皮膚アプローチを個別に行って褥瘡などのスキントラブルを減少させています。ケアによる変化を数値で表す科学的な手法です。数値から気づき、ケア内容の改善といった一連の流れがとても評価できます。一方で、介護という視点から考えると、皮膚状態の改善によって生活がどう変わったのか、居心地がよくなったのか、と言った点にも興味を湧きます。細分化された部分的なアプローチが、その人の生活全体にどのように影響があったのかが分かればさらによい発表だったと思われます。
1-④	1	奨励賞	北海道	エンド・オブ・ライフ 芦別慈恵園での暮らしと旅立ち	特別養護老人ホーム 芦別慈恵園	滝口 千秋	一人ひとりの生き様が伝わる内容でした。やはり人生の最後の楽しみは食事が多いと感じます。その食事量から質に視点をずらすためには努力が必要で、その取り組みがよく伝わってきました。事例中の医師による「退院した方がよい」との発言は、評価の証です。きっかけとなった利用者からの学びを大切に、施設全体で最期まで口から食べられる食事の工夫やケア、想いに寄り添うことなど、取り組みながら多くの方の共鳴を得られて拡がっている様子が伺えました。抄録と発表内容とに情報量の差があり、もう少し抄録に施設の理念や取り組みの詳細を記載してあると、さらに理解しやすい発表になったのではないかと感じます。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
1-⑤	5	最優秀賞	山口県	口腔ケアの意識改革に向けて	特別養護老人ホーム きくがわ苑	藤本 洋子	今回の研究は、訪問歯科医師のしっかりした指導のもとOHAT(口腔アセスメント用の評価)の導入をすることで口腔ケアの質の向上と職員の意識改革を行ったことは評価できる内容だと思います。また、口腔ケア委員会を立上げ、研修、訪問診療時には介護職が付き添い歯科医師の助言をしっかり聞き、取り組む姿勢は評価できますので、今後は事例(二桁程度)の課題解決を積み重ねて第2報の報告を楽しみにしています。
1-⑤	1	奨励賞	北海道	鷹栖フレイルゼロプロジェクト ～コロナ禍での新たな取り組み～	鷹栖町デイサービスセンターはびねす	大河原 和也	本研究は、介護予防事業でコロナ禍の最も問題にされていたフレイルに取り組み、的確に事態宣言下の前後の変化を比較したアンケート調査を実施して問題抽出され、そのことに対処する内容としてLINEを活用して運動プログラムを毎日配信し、終了したらLINEにてメッセージを返信するなど、またインセンティブを付与することにより、参加を意欲づける様な仕法がなされていた。発表内容もスライドが分かりやすく工夫されており、聞いている人を納得させる内容であった。また、統計解析も行っており、研究スタイルも優れていた。
1-⑤	3	奨励賞	山梨県	うめえじゃんけ	特別養護老人ホーム 仁生園	斉藤 綾	本研究は、現場の声を取り入れて、ペースト粥からゼリー粥、副食、水分ゼリーに変更する基本を日本摂食・嚥下リハビリテーション学会の嚥下調整食を基準にして活動成果を上げていますので、分かりやすくどの施設でも取り入れやすい研究内容で高く評価できる発表だと考えます。また、副食については改善が見られず今後の課題としていた。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
2	2	最優秀賞	東京都	スケールを用いてリフトの優先度を判断することによる効果的な持ち上げない介護の実現	特別養護老人ホーム 砧ホーム	小谷野 祐樹	根拠に基づき、介護機器と適応のある利用者の選定に取り組んだ研究であり、この両社のマッチングを検証したことは広く介護現場にとって非常に有益です。その理由を以下に述べます。 ・発表者は、スケール作成したうえで仮説を検証上で、評価項目毎にウエイト付けをし数値化した。 ・さらに評価で得た得点の妥当性までも検証している。この点が特に、科学として高く評価されるものです。そのうえで、優先順位の設定と、代替的介護技術を投入し検証し成功している。まさに今般の生産力向上という国策にも貢献する成果として総合的に見ても高く評価する。
2	7	奨励賞	愛媛県	社会福祉法人の連携で繋いだ小規模事業でのクラー発生対応から学んだこと	特別養護老人ホーム 松葉寮	竹田 葉子	入浴介助やベッド移乗介助時の職員の負担軽減にノーリフティングケアが寄与している発表と評価できます。その際、浴室改修やベッド固定リフト導入が前提条件とすれば、経費問題をはじめ、それを実現するために法人で検討した事項、導入を意思決定できた背景が資料と発表に含まれていれば、会場参加者が応用、実践するために、より役立つと思われます。 さらに、指摘されている通り、取り組み背景に「利用者にとっても負担やケガのリスクが高ケア」への問題意識があるので、その点を踏まえたチェックリストやアンケートの企画、安全面の効果検証の結果は、取り組み自体に必要不可欠です。また、地域貢献・在宅介護への今後の展開も具体的計画や方向性を示せていれば、なお良いと思われます。
2	3	奨励賞	神奈川県	新型コロナウイルスから守りたいものがある状況下でも福祉のこころを大切に~コロナ	特別養護老人ホーム 陽光の園	澤地 美明	医療機関とは異なる、入所者の人生の場を兼備することを忘れない素晴らしい実践報告です。まず、職員さんの出勤導線に設置された情報掲示健康管理に免疫強化の指導やつぼマッサージに運動。まさに、施設ならではの取り組み。その中でもICTを取り入れた研修や会議も実施しつつ、面会には愛の糸電話と称した工夫の数々。まさに愛(人としてのぬくもり)を感じる取り組みであります。その一方で、陰圧整備にカーテンによる見える化されたゾーニングにより在宅生活も守る。これぞ、地域の中での重介護の拠点になりえる、時代に左右されない必要とされる特養のあり方であると確信します。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
3-①	3	最優秀賞	岐阜県	抽象度の幅で考える採用戦略 一失い続けた採用経費を1年間で「0」にした方法一	特別養護老人ホーム 寿楽園	下菌 聡	有料職業紹介の斡旋料高騰により、250万円の紹介料損失が施設経営を圧迫する中、その損失を改善するために“早期離職ゼロ”を掲げ、掛け声に終わらせない理路整然とした取り組みが評価できる。科学的介護はエビデンスが求められるが、人材確保についても従来の手法にとられない斬新な工夫が施されていた。アフターコロナの時代に向けてヒントを得られる発表であり、審査員満場一致の結果となった。
3-①	1	奨励賞	秋田県	職員が自慢できる施設をめざして	特別養護老人ホーム 大平荘	船木 竜介	「自覚があれば、意欲が生まれる」。まさに自分の職場の良さを自覚できれば、仕事にも意欲が生まれるものである。認証制度でその良さを検証し、Q&A形式で疑問に答えていく。ベーシックな取り組みであるが、説得力がある。人材確保に特効薬はなく、常日頃から自道努力を重ねていくことが成果につながることを学ばせられた。
3-①	5	奨励賞	長崎県	離島における人材確保 成果と失敗、そのトライ&エラー	たまんなゆうゆう	門原 淳一	都市部では都市部なりの、また地方では地方なりの人材確保の難しさがあるが、これが離島となるとまた、特殊な事情が絡み人材確保をより困難なものとしている。こうした厳しい状況の中、移住者の採用に果敢に挑戦している。ライバルは同業種ではなく、離島の産業全てであるが、地域を巻き込んでの取り組みにエールを送りたい。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
3-②	1	最優秀賞	北海道	good楽っく！～TQM委員会のすすめ～	特別養護老人ホーム 南幌みどり苑	島 由樹	ご利用者の幸せを願い行動することにより、職員のやりがいとスキルアップを図り、職員の定着につなげる点が良かったと考えます。スライド内容も理解しやすく、TQC(品質管理活動)の手法を取り入れた、論理的でとても分かりやすい発表でした。取り組み内容が買物という、とても身近で現実的な点も評価できます。今回は利用者の意向を踏まえて買物ができる仕組み作りにより、利用者の方の幸せにもつながったと思います。これからも、継続的な取り組みに期待しています。
3-②	3	奨励賞	愛知県	私たちの施設にスピーチロックはいらない！	特別養護老人ホーム なごやかハウス滝ノ水	今井 悠二	職員のスピーチロックによる身体拘束を防止することにより、虐待につながる危険性を未然に防ぐための取り組みは評価できます。今後は、スピーチロックに対する理解を深めるだけでなく、職員体制を構築し、ICTを活用したうえでスピーチロック0(ゼロ)を目指して取り組んでください。また、他の事業者でも積極的に取り入れられることを切望します。
3-②	5	奨励賞	熊本県	リーダー道！道半ば ～出る杭を打たないで～	特別養護老人ホーム くわのみ荘	濱崎 桜弥	発表者の熱意が実を結び、リーダーとして成長し、Mさんの状態が改善していく様子が読み取れ共感ができました。今後はリーダーとして、いかにチームをとりまとめ、ご利用者の生活をさせることが大切になります。どうすれば多職種と協働しながらご利用者に寄り添えるかを探りながら、ケアにあたってください。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
4	11	最優秀賞	熊本県	笑顔の見える化～脳のパフォーマンス向上に向けて～	指定通所介護事業所 るり苑	小林 歩	通所介護事業所として「ADL維持等加算」から目を背けることなく「科学的介護」時代の始動という時代の変化に即応されていたことは大変素晴らしい。取り組み内容も先行研究理論を丁寧に用いて学び、実践しており、活動の成果と評価も定量的な数値成果として明確に説明され、根拠に基づくひとつひとつの取り組みとその検証が具体的で分かりやすかった。一早くBI・ADL維持加算等を導入し、最先端の脳トレ・アロマオイルなどを活用して認知機能の改善を図るとともに、「見える化」の取り組みによって利用者の自己効力感が向上されていることや、どのデイサービスでも取り組める内容となっていることが高く評価できた。
4	7	奨励賞	京都府	社会参加から考える自立支援とは	京都市西院老人デイサービスセンター	田中 里映	通所介護事業所の運営を通して、高齢者福祉における「自立支援」を定義づけ、それを現実的に展開できていた。特に「身体的自立」と「自己実現」を連動させ、働くことにつなげている点は大変素晴らしい実践であり、利用者の社会との関わりをつなぎ、発展させる取り組みは他法人でも簡易にまねできない取り組みである。さらに、これまでの取り組みを自省し、地域・企業・行政・学校との連携、協業を図りながら、真の自立支援介護を具現化し、これぞデイサービスのイノベーションといえる実践に感銘・感動した。
4	8	奨励賞	奈良県	利用者のADL維持を目指して ～コロナ禍で地域密着型デイができること～	地域密着型通所介護 音和舎“善”	和田 大輔	コロナ禍において、利用者が自宅に閉じこもることによるADLの悪化、という浮き上がってきた課題に対して、「利用者のADL維持」を実現するという高齢者福祉・介護保険制度の理念に則った目標設定と効果のある対応が素晴らしかった。情熱と理論とICT活用という変化への適応のバランスが撮れており、地域にとってなくてはならない通所介護事業所の模範であった。コロナ禍での安心・安全なサービス利用のために、丁寧なニーズ調査や新しいソフトの活用・徹底した感染対策を行い、これぞ「利用者ファースト」という実践であった。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
5	1	最優秀賞	愛知県	コロナで運動不足と言わせない！！南生苑 ～心身ともに健康を目指して～	ケアハウス南生苑	阿山 博美	コロナ禍でも利用者が目標をもって意欲的に取り組んでいることは大変参考になる。ADL維持とQOL向上の多方面からアプローチし、自己実現が生きがい作りにつながっている。他の施設でも取り組めそうな事例である。 また、取り組み・成果・評価等の課題が整理されていて、簡潔に纏めてあるのでわかりやすい。
5	4	奨励賞	佐賀県	まだまだ現役！	ケアハウス大地	田中 亜津子	施設独自のボランティア制度の創設を利用者の活躍の場と職員の業務軽減に上手く繋げていることは参考になる。日常的な活動がリハビリとなり、重度化予防にもなっている。 資料は具体的でわかりやすかったが、原稿を工夫すればもっと良かった。
5	3	奨励賞	高知県	ケアハウス四万十開設までの取り組みと開設後の現状について	ケアハウス四万十	才市 伸	開設にあたり人材確保・入居者募集などの取り組みが早いのは高評価。ICT導入で知りたい情報が多数あるが、テーマを広げすぎて浅い情報提供となったことは残念である。

令和3年度 全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)実践研究発表入賞者一覧表

分科会- 分散会	発表順	賞	都道府県	演題名	施設名	主発表者名	講評
6	1	最優秀賞	岩手県	法務省事業「自立準備ホーム」への取り組み	養護老人ホーム松寿荘	遠山 郁弥	空床等を利用し自立準備ホームの登録を行い刑務所出所者等の 人々に住居等を提供することで再犯防止に寄与している。また、養 護老人ホームの相談支援機能や他の機関と連携して適切な福祉 サービスに繋げ出口への支援を行うことは社会への貢献も非常に 大きい。 また、結果として養護老人ホーム職員のスキルアップや入所者の 確保、措置費以外の収入確保と良い流れにつながっているのは、 今後の養護老人ホームの取り組みの一つとして参考になる。
6	5	奨励賞	福岡県	聴覚・言語障害者専用の養護老人ホームの現状と 課題 ～コロナ禍における情報保障の支援の取組み～	養護老人ホーム 田尻苑	嘉村 幸江	聴覚障害の高齢者への情報提供が標準的な手話だけで行えるわ けではなく非常に難しい中、各職種がそれぞれ多くの情報提供を 行ってコミュニケーションを密にしている。コロナ禍においてより感 染症の理解や外出、面会等の情報提供を丁寧に行っていくこと は、聴覚障害の養護老人ホームだけではなく一般の養護老人ホ ームにとっても非常に参考となる。
6	3	奨励賞	奈良県	リスタート 出所後の支援 ～人に頼られることの喜 び～	社会福祉法人総合施設 美吉野園 老人寮	今西 岳人	触法の方を職員全体で理解し受け入れようとする取り組みと、 ご本人が人のために何かをしたい仕事を行いたいという気持ちを 理解し、シルバー人材センターでの就労やマスターズ陸上への参 加等様々な社会資源を活用し、養護老人ホームのセーフティ ネット以上のトランポリン機能が実現と参考になる。同時に入居者 同士のコミュニケーションの難しさも実感した。